

自己評価						
学校運営計画(4月)			評価(総合)			
学校運営方針	新しい時代を担う人間として、徳育・知育・体育の調和を図り、豊かな創造力を持ち、自ら学び、個性を伸ばし、多様な人々との協働を実現しつつ、地域や社会の発展に寄与する人材を育成する。					
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標				
コロナ対策を行いながら例年通りの行事を実施することができた。特に、大きな行事については経験が無い中、生徒自ら主体的に考えて実施することができた。探究活動は生徒主体で取り組み、課題解決能力を高めることができた。課題としては、ICT教育の推進における情報活用能力の育成と学習評価の改善の更なる研究である。また、地域や関係機関等との更なる連携が必要である。	○重点目標 (1)人間的基盤としての「春日五常」を柱にした総合的な教育実践 (2)地球的な視野を持ち、次代を担う実践的行動力と探究する不屈の志(グローバル・スタディーズの基本的精神)を持つ生徒の育成 (3)文武両道(インプット・アウトプットの相乗効果)の力が発揮できる教育課程の確立 (4)多様な価値観を尊重し、公共の幸福に貢献する能力を養うための外部機関との連携強化 (5)同僚性・協働性・親和性を備え、学びとは何かを問い続ける教師集団による次世代の育成	(1)学校教育活動(特に行事)を通したリーダーシップ、フォローアップの育成 (2)課題発見・課題解決能力を育成する探究活動について、3年間を通した一貫したスケジュールの確立 (3)学習評価の改善(生徒の学習改善、教師の指導改善)と情報活用能力の育成についての研究 (4)個に応じた多様な進路実現へ向けた支援 (5)地域や大学、関係機関等と連携した信頼される学校づくり (6)都市型普通科高校としての存在意義の確立				
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)			
教務部	教務課	生徒の実態に応じた教育環境の整備、学習支援の強化、年間授業時数の調整を図り、バランスのとれた学力の伸長を支援する。	教育課程・教務規定・教務内規・学習評価の改善を他分掌と協力しながら検討する。 時間割変更の効率化により、授業時数のバランス化を図る。 SchoolEngineの円滑な運用に努める。 毎月の行事予定を教員に早めに提示し、計画的な指導を支援する。	B		
		生徒が自主的に学習に取り組み、学力を向上させるための指導の充実を図るとともに、実践的行動力と探究する不屈の志をもつ生徒の育成を図る。	「Kプロ」を中心に、各課と各学年と連携し、生徒の探究する不屈の志を育成する。 大運動会や春日祭などの学校行事や委員会活動を活用し、実践的行動力の育成を図る。 委員会活動を活用し、生徒の自主的な学び、積極的な行動力、広い視野の獲得を支援する。	B		
		生徒の生活習慣や実態を把握し、学習習慣の定着を図る。	成績不振の生徒情報の共有化・特別補講の実施により、主体的に学習に向かう態度を育成する。 クラッシーを活用し生徒の学習時間を把握し、学習習慣の定着を図る。	B		
		入試広報課	朝課外の全廃や時制・教育課程の変更など、新しい春日高校について近隣の中学校や塾に周知する。 入試広報課ではない職員や生徒たちにも手伝ってもらい、全員で広報活動を行う。 3種類の入学者選抜の円滑な運営と、志願倍率の向上に資する。	学校案内パンフレット、学校紹介動画などの刷新と充実を図る。 1学期のうちに中学校訪問を実施する。 中学生や保護者の個別訪問対応については、入試広報課以外の職員にもシフトを割り振る。 進路相談事業や体験入学などでは例年以上に生徒を前面に押し出す。 教務部長を中心として職員間の連携を強め、企画・立案を早め早めに行う。 中学校や塾などとの交流機会を増やす。	B	
		企画課	教職員の労働環境と生徒の学習環境の整備を図る。 生徒が主体となり企画・運営する式典・行事の支援を行う。 PTA・同窓会との連携の更なる深化を図り、多くの人に愛される学校づくりに寄与する。	早めの学校行事の企画・調整により、教職員が事前に計画的に行動しやすい環境を整える。 円滑な引き継ぎ実現のため、言語化されていない隙間業務がないよう、詳細な業務内容の事蹟を残す。 メールやClassiによる奨学金募集により、円滑にその手続きが行えるようにする。 式典進行を含め、諸行事・式典への生徒の自発的運営の更なる活性化を図る。 防災避難訓練において、地震や火災、豪雨などの多様な自然災害を想定した訓練を企画する。 PTA主催行事が、コロナ禍前の方で円滑に企画・運営できるよう支援する。 同窓会との連携を図り、より一層の学校活性化に向けた協力体制の整備を図る。	B	
		生徒課	「春日五常」(克己の心、素直な心、感謝の心、思いやりの心、公共心)をとおして、豊かな人間性を育成する。 部活動や学校行事の活動を活性化し、帰属意識やリーダーシップ・フォローアップを育成する。 安全・安心なホームグラウンドである学校を確立するための指導の継続と強化を図る。	教師の率先垂範により「笑顔、挨拶、時間厳守」など凡事徹底を図り、生徒に自主的な姿勢及び態度、感染症対策を徹底した行動を身につかせ規範意識を育む。 学校行事やホームルーム活動の充実・活性化を図る中で、その目的や意義を理解させ、企画・運営に取り組みさせることで、チームワークやコミュニケーション能力を育む。 生徒会執行部と各専門委員会、各部活動、各クラスを機能的に連動させることで、生徒会活動の活性化を図る。積極的に活動内容の広報を中学校や地域に行うことで帰属意識を高める。 学校行事等の企画・運営を積極的に生徒に行わせ、感染症対策を徹底した上で新たなものを作り出す企画力・計画力・実行力・調整力と協調性を養い、その中で、自ら創造する喜びを体験させる。 部活動の充実・活性化を図り、加入率85%以上を目指すとともに、高みにチャレンジする精神を涵養し、心の指導を充実させることで本校発展の核となる春日生を育成する。 学校生活アンケートをオンラインで実施することで生徒の声が届きやすい環境を作る。二者面談や教員間の情報共有、保健課との連携を通して、いじめ撲滅や生徒のつまずき、不安への早期対応に努める。 交通安全教育の工夫と徹底を図り、自転車通学生のマナーを向上させるとともに、交通安全委員会を立ち上げ、生徒が主体的に行動する体制を構築する。非行防止・防犯教育・自己防衛教育を諸機関と連携して計画的に実施し、自他の安全確保と自己防衛力を高める。	B	
	保健課	生徒課	生徒が安全・安心な学校生活を送ることができるように、状況に応じて新型コロナウイルス等感染症の予防・対策を行う。健康診断・健康観察等をとおして、生徒自らが心身の健康管理に注意し、健康的な生活習慣・態度を養うことができるように指導する。	B		
			学校行事・ホームルーム活動・生徒会活動・部活動において、健康管理等の保健指導や安全指導を保健委員会等の生徒が主体となって情報発信をし、適宜指導する。	A		
			保健室・学年会・生徒サポート委員会を通して、特別支援教育コーディネーターを中心にスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー・訪問相談員等の外部機関との連携を高め、カウンセリングの活用を中心とした支援体制の充実を図り心の健康維持・増進に努める。	A		
		保健課	保健衛生に対する啓蒙活動を充実させることにより、環境美化と環境衛生活動の推進を図る。美化意識を高め環境にやさしい学校作りをめざす。	掃除の仕方を年度当初に確認し、整美委員を中心に声かけをする。また、びかびかコンクールを行い、掃除への関心を高める。 安全点検(A区分・B区分)を定期的に行い、安全で快適な学習環境を作る。 グリーンスタッフ活動(花運動・古紙回収)の充実を図り、花運動や古紙回収など行い環境に優しい学校づくりを目指す。	B	
			ガイダンス課	生徒の進路意識を高め、主体的に学習する姿勢をサポートする。	進路検討会における積極的な意見交換を行う。 各学年生徒の現状把握(進路希望の傾向など)と当課-各学年間の情報共有および進路ガイダンスを行う。 担任の面談をサポートする。	B
				生徒および教員の進路情報および進路データ(校内外の)の活用を推進する。	最新の進路情報および進路データ(校内および外部機関提供も含む)の職員への共有またその活用の支援を行う。 学年会議(担任会議)、教科会議と連携を密にする。 進路のしおり「春風」の刷新をはかり、HRIにおいて具体的にどのように活用するかを明示する。 ガイダンス室の資料の充実化をはかり、環境の整備を行う。	A
		B				

学校関係者評価		
評価(総合)	自己評価は	
A	A : 適切である	
	B : 概ね適切である	
B	C : やや適切である	
	D : 不適切である	
項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見	
B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の実態に応じた教育活動を計画的に実施している。教科の学習についても、生徒の知的好奇心を引き出す教材や活動内容を工夫するなど、生徒が主体的に取り組むことができるよう、授業の一層の充実発展に努めてほしい。 ICT教育活動の推進は重要であり、様々な場面で活用がみられている。一方で、学習評価の改善については、これからも改善の取り組みを進めていく必要がある。 改善を要する項目については、しっかりと原因究明を行い効果的な対策を実施してほしい。 本校に入学する生徒は、ほぼ全員が大学進学を希望しており、地域からも進学校として期待されている。生徒や保護者のニーズや地域の期待に応えるためにも、進路実現に向けた指導を推進してほしい。 校務処理に関する情報化の推進は、職員の負担軽減だけでなく、授業や生徒に向き合う時間を作るためにも必要であり、改善を続けてほしい。 	
	A	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の確立は図られており、日ごろからの指導の効果がうかがえる。 学校行事では、生徒が中心になって企画立案から実行まで行っており、リーダーシップとフォローアップが育成されている。 下学年が先輩の活動を見て学ぶことにより、活動が継承されており、コロナ禍で縮小された活動もあるが、よい取り組みはしっかりと伝えていってほしい。 生徒の心身の健康と安心して教育活動に取り組める環境づくりをこれからも継続してほしい。今後、様々な面に関する支援体制づくりが重要になってくると思う。

ガイダンス部	ガイダンス課	運営面でも含めた放課後課外および校外外模範試験の最適化をはかる。	運営面での業務の偏りが起こらないように月に1度は会議等で直接意見交換の場を設け、事務および担当教員間で意思疎通をはかる。	B	B										
			放課後課外実施にあたっての教員間での理念の共有と各科目の目的の明確化および生徒へのシラバスの提示を行う。	B											
			校内模試の作問検討会を教科内で、校内・校外模試の結果のフィードバックを学年・教科・ガイダンス課が連携して行う。	B											
			全学年、校外模範試験監督業務を卒業生を交えて運営する。	A											
ガイダンス部	キャリア課	3年間を通した総合的な探究(Kプロ)の時間において、春日から地域にそして世界にHasshin(発信×発信)できる生徒を育成するとともに持続可能な体制整備を図る。	1年生では、「探究基礎」/SDGs探究/「企業訪問」を通して、探究の基礎知識(プロセス)を学び、探究の基礎・基本を固めさせる。コース選択を視野に入れつつ、様々な立場の方々から情報を取り入れ、将来の夢と学問や社会とのつながり、世界や地域の課題を知ることができるよう指導する。 2年生では、「課題探究」を通して、SDGsの視点を取り入れ身の周りから世界や地域・社会の課題を探究する力と課題を発見し、解決の具体的な方策を提案・発表できる生徒を育成する。またプレゼン力の向上を図る。 3年生では、「自己探究」を通して、生徒の進路実現に向けてガイダンス課と協力し、最後まで諦めず自己実現のための高い志をもった心身ともに逞しい生徒を育成する。	A A B	A	B	・総合的な探究の時間の時間数の適正化とそれに伴う内容の精選、計画を見直す(3年間の計画を順次前倒す)。 ・行事の際の時間割変更や体育館等の使用を事前に依頼・確認する。 ・行事等で複数時間連続する日を学年間で極力統一する。 ・外部のキャリア事業に、より積極的に参加するよう生徒にPRする。	A	・進路指導を担うガイダンス部と、学習活動を担う教務部の連携は重要である。さらに職員研修を担う研修部との連携を含め、時代の変化に合わせた効果的な指導が行えるよう、該当各部の連携を推進してほしい。						
		外部組織(春日市や九州大学、企業等)との連携を充実させ、地域とより密接な事業を推進し、生徒の進路意識を高めるとともに自己の在り方、生き方や考え方を育む。	外部で体験活動等の案内を精選しながら、生徒のキャリアに直結する魅力的な活動に積極的に参加させることで、興味深い学問の世界や様々なもの見方・考え方に触れ、自己の在り方を深く考えさせ、進路意識の向上を図る。 外部組織との連携をさらに深め、生徒が様々な活動にチャレンジできるように支援する。また、上級大学への進学意識の高揚のために、感染症対策を徹底した上で、関東圏ハイレベル研修を計画し実施する。 卒業生講演会や出前講義、大学説明会を通して、職業と学問のつながりや仕事のやりがいなどを考えさせる機会の充実を図るために、同窓会との連携を深め、三菱みらい育成財団からの助成事業を効果的に活用し、持続可能な探究教育プログラムの体制を整備する。	B B A											
		春日学術研究会の活動を今まで以上に充実させ、ハイレベルな学びを体験させることで、学習意欲を喚起する。	個に応じたきめ細やかな指導で多様な取り組みを支援し、外部キャリア形成事業や資格・検定試験に積極的に参加させ、活動内容の更なる充実を図る。	B											
		情報管理課	ICT機器や視聴覚教材の管理運用を図る。	Chromebookの利用促進のための環境整備を行い、活用法について研究を深めるとともにあらゆる機会を用いて生徒への啓蒙活動を実施する。						A	A	B	・Chromebookや校務用PC等に関わる業務負担が多いので、業務内容の精選を行い機器管理係の人員を増やして対応できるようにする。 ・ICT支援員の訪問日に合わせて業務を計画的に遂行できるように連絡・調整をよりこまめに行う。 ・情報機器や新しく導入するソフトウェア等についてよりわかりやすく使いやすいマニュアル作成に努め、教育の情報化や教育内容の一層の向上に寄与する。	A	・教員にもクロムブックが配布され、授業への活用を図ることができた。さらに、電子黒板や無線LAN環境の追加整備により、どの部屋でもICTを有効に活用できる環境が整えられたので、次年度は、教育活動へのICT活用を一層推進してほしい。
				メール配信とホームページ更新を一層活性化させ、校内での情報共有と校外への広報活動に資するとともにデジタルサイネージの活用を図る。						B					
				課職員間で係単位での仕事の分業化を図るとともに、情報交換を密にし課員相互で業務に係るノウハウを共有する。						A					
				Excelによる機器の貸借管理を徹底し一層の利便性向上を図るとともに授業用マイク等の視聴覚教材についても管理運用を行う。						B					
		図書研修課	教職員のICT技術向上を図る。	使い方の難しい教材については、親切に解説を加えたマニュアル等の整備を行い、利用促進を図る。						A					
				ICT支援員と連携して、業務に用いるソフトウェアの使い方について親切に助言を行ったり、プログラム作成につながる取組を行ったりする。						B					
				School EngineやClassi、およびChromebookなどの活用について適宜情報を発信し、業務の円滑な協働化を図る。						B					
研修課と連携して適宜職員研修を行い、ICT技術の向上を図りつつ機器の利活用を進めるとともに著作権についても理解を高める取組を実施する。	B														
図書研修課	生徒の読書を推進する。図書館の情報を提供する役割を充実させる。	各学年のクラス・教科及び分掌との連携を図り、生徒の図書館利用の頻度を高める。 新入生へのオリエンテーション・多読賞・1年生の読書感想文コンクール等を通して、読書の必要性を伝え、図書館の利用を促す。 Chromebookを通して「朝日けんさくくん」を活用させ、春日プロジェクト(Kプロ)等における探究的協働的学習の場として図書館を利用させる。 学校図書管理システム(e-slip)や図書館だよりなどの広報活動を通して、蔵書の周知と活用を図る。 県教育委員会主催の研修や公開授業への参加を積極的に進め、職員力量の向上を図る。 情報管理課と協働して、ICT機器活用能力の向上と授業アンケートを活用した授業の分析と改善を図る。 児童や生徒を対象とした地域との連携事業に積極的に取り組む。 職員間の業務連携と未来を担う職員の育成や教育実習の充実を図ること、本校の継続的発展に寄与する。	B A B B B B A	B	B	・8:20~8:35の間、生徒に教室での読書を推奨して、生徒の読書量を増やす。 ・令和7年度福岡地区高等学校図書館協議会の事務局として福岡地区全体の読書推進を図る。(令和6年度より、次年度への準備のため事務局業務の約半分を担う。) ・生徒による授業アンケートを通して、授業の質の更なる向上を図り、ICT機器活用効果も高める。	A	・そのためにも、教員のICT活用指導力の向上は必須であり、職員の研修の充実を図ってほしい。 ・授業アンケートにおけるICT機器の活用は有効である。アンケート成果をどのように授業改善に活かしていくかが重要である。							
		職員研修の充実を図る。校外との連携を促進する。	情報管理課と協働して、ICT機器活用能力の向上と授業アンケートを活用した授業の分析と改善を図る。						B						
			児童や生徒を対象とした地域との連携事業に積極的に取り組む。						B						
		職員間の業務連携と未来を担う職員の育成や教育実習の充実を図ること、本校の継続的発展に寄与する。	職員間の業務連携と未来を担う職員の育成や教育実習の充実を図ること、本校の継続的発展に寄与する。						A						
			職員間の業務連携と未来を担う職員の育成や教育実習の充実を図ること、本校の継続的発展に寄与する。						A						
		評価項目	具体的目標						具体的方策		評価(3月)	次年度の主な課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見	
学年	1年生	「春日五常」の精神を体現する生徒の育成	・自他ともに尊重し、多様性を理解して良好な人間関係を構築し、協働できる生徒を育成する。 ・ルールやマナーの意義を理解し、遵守実践できる生徒を育成する。 ・全ての教育活動を通しコミュニケーション能力を育む。	B B B	B	B	・感染症対策について社会の意識の変化もあり無理をしない、無理が利かない生徒も多い。しかし、先生方のきめ細やかな対応により不登校傾向が改善する生徒もいるので、粘り強く指導を続ける。 ・協働的活動やツールの利用には長けているところが見られる反面、学習や人間関係において精神的負担に弱い面が見られる。今後さまざまな活動や挑戦できる仕掛けを用意し、鍛えていく。 ・清掃・ルールや時間の遵守などをさまざまな角度から学年全体で指導し、中核学年としての自覚を涵養する。	B	・どの学年も、基本的な生活習慣の確立、学校行事等諸活動を通した人間力の育成、進路実現を含む学習活動の充実を目標に掲げ、概ね成果を挙げている。 ・1学年については、高校生活に慣れ本校の一員として活動できる生徒の育成を目指して活動を行った。次年度は中間学年として、諸活動の中心となり活躍してほしい。						
		変化の激しい世の中をたくましく生き抜く素地の確立	・心身ともに健康で出席率99%、皆勤率55%をめざし、文武両道を体現する生徒を育成する。 ・行事や清掃を含め教育活動の意義を見だし、何事にも工夫をして最善を尽くす姿勢を涵養する。 ・学年相応のリーダーシップ、フォローシップを発揮する場面を多く作り、集団に寄与する公共心を育む。	B B A											
		将来の自分の姿を志高く思い描き行動できる生徒の育成	・進路情報や外部と連携した活動等を多く提供し、視野を広げ未知の世界に挑戦する気概を醸成する。 ・Classiなどのツールを活用しながら基本的な学習習慣を確立させる。 ・Kプロと授業を連携させ、論理的な思考や主体的な学びを体得させる。	A B B											
		「春日五常」の精神を実践する生徒の育成	共生する他者との良好な関係を構築できる素地を育成するため、校内外のルール・マナーを遵守させる。 社会の多様性を理解させ、公共心や思いやりの心を実践できる生徒を育てる。 他を思いやり、コミュニケーションを円滑にし、協働の精神を育む。	A A B											
	2年生	何事にも全力で取り組み、活動の意義を自ら見出す生徒の育成	5分前行動を心がけ、集団の中で生活する者として責任感を持たせる。 清掃を丁寧に行い、学校への感謝の心、公共心を育む。 出席率98%、皆勤率55%以上を目指し、己に打ち克つ精神を育む。 学校行事において、学校の中核学年として3年生をフォローしつつ、1年生を導くリーダー的素養を育む。 修学旅行の企画・立案を通して、協働・共生の資質を涵養し、一人ひとりが社会の中で必要な存在であることを実感させる。	B B C A B	B	B	・2学期以降の欠席者が増えている。しかし、Zoomでの受講を希望するなど学習への意欲は高いので、健康増進への取組も行っていく必要がある。 ・進路希望調査等を実施する中で、自身の卒業後を明確にイメージできている生徒が増えてきたが、受験方法などについては明確でない者が多い。面談を通してその生徒に適した受験を促していく。また、志望校が現在の自分の位置で設定しているものも少なくない。1ランク上を目指させる指導を継続していく。 ・清掃について、一生懸命にやる生徒とそうでない生徒の差が大きくなってきた。春日五常の「思いやりの心・公共心」などを軸に、生徒の心に訴える指導を継続していく。	B	・2学年については、3年生を支え学習活動も含めてしっかりと活動することができた。次年度は最終学年であり、学校全体のリーダーシップを発揮するとともに、進路実現に向け、指導を一層充実してほしい。						
			将来を具体的に思い描き、その実現のために行動する生徒の育成	進路情報を数多く提供し、未知の領域へチャレンジする志を育む。 1年次の学習に取り組む姿勢を前提に、自らに必要な学習計画を立案・実行し、能動的に学習に取り組む姿勢を育む。 Kプロの時間を通し、自らの目の前の事象を批判的に考える思考力を鍛え、その解決策を模索する基本的な姿勢を育む。						B B B					
			「春日五常」の実践 ～地域・社会の発展に寄与する自律した生徒の育成	・挨拶、5分前行動、清掃等を徹底させ、お互いが気持ちよく過ごせる空間を作ることで思いやりの心や公共心を育む。 ・行事や探究活動に真摯に取り組ませることで協働の精神や克己の心、感謝の心を養う。						B A					
			〇生徒の進路実現に向けた指導体制の確立 ～高い志を持ち、進路実現のために粘り強く努力できる生徒の育成	・個に応じた学習支援を行い、向上心を持って自主的に学習する生徒を増やす。 ・ICT機器の効果的な活用や、教科内の連携強化などにより積極的に授業の改善を図る。 ・面談を活用し、担任が中心となって生徒の状況を把握し、学年で情報を共有する。 ・進路情報を共有し、学年団全員が多様な入試制度に対応できる体制をつくり、生徒を支援する。						B C C					
	3年生	〇生徒の「挑戦」への支援 ～様々な活動に積極的に挑戦し、自己の成長に繋げることができる生徒の育成	部活動や春日祭、大運動会などの行事を通してリーダーシップ、フォローシップを向上させる。 ・集団の中での自己の役割を意識させ、お互いに尊重し合う態度を涵養する。 ・外部模試を含め、学外の活動に積極的に挑戦させ、幅広い視野を持たせる。	A B B B	B	B	・大運動会に向けた活動では実行委員やリーダーを中心に生徒の成長が見られ、学年としてのまとまりも高まったが、その勢いを継続させることが難しかった。その後の出席状況や学習への取り組みも個人差が大きかったため、学年としての仕掛けを工夫する必要がある。 ・ガイダンス部との連携や担任間の情報共有がうまくいっていないところがあったため、調査書発行の流れ、進路検討会に向けた動きなど、具体的に今年度の反省事項を記録し、次年度に引き継ぎ必要がある。	B	・3学年については、春日祭や大運動会をはじめ学校全体をけん引するリーダーシップを発揮してくれた。進路実現のための指導を最後までお願いしたい。						
			〇生徒の「挑戦」への支援 ～様々な活動に積極的に挑戦し、自己の成長に繋げることができる生徒の育成	・部活動や春日祭、大運動会などの行事を通してリーダーシップ、フォローシップを向上させる。 ・集団の中での自己の役割を意識させ、お互いに尊重し合う態度を涵養する。 ・外部模試を含め、学外の活動に積極的に挑戦させ、幅広い視野を持たせる。						A B B					
〇生徒の「挑戦」への支援 ～様々な活動に積極的に挑戦し、自己の成長に繋げることができる生徒の育成			・部活動や春日祭、大運動会などの行事を通してリーダーシップ、フォローシップを向上させる。 ・集団の中での自己の役割を意識させ、お互いに尊重し合う態度を涵養する。 ・外部模試を含め、学外の活動に積極的に挑戦させ、幅広い視野を持たせる。	A B B											
〇生徒の「挑戦」への支援 ～様々な活動に積極的に挑戦し、自己の成長に繋げることができる生徒の育成			・部活動や春日祭、大運動会などの行事を通してリーダーシップ、フォローシップを向上させる。 ・集団の中での自己の役割を意識させ、お互いに尊重し合う態度を涵養する。 ・外部模試を含め、学外の活動に積極的に挑戦させ、幅広い視野を持たせる。	A B B											

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

B 生徒の主体的な学びを推進し、考える力・書く力を育成するため授業改善を図る

B 職員研修を充実させ、ICTの活用を推進することにより学習活動を充実させるとともに校務の情報化を推し進め業務の効率化を図る

評価項目以外のものに関する意見

朝課外の廃止に伴う影響の検証と対応が必要ではないか

コロナ禍で縮小された行事が実施できるようになり良かった